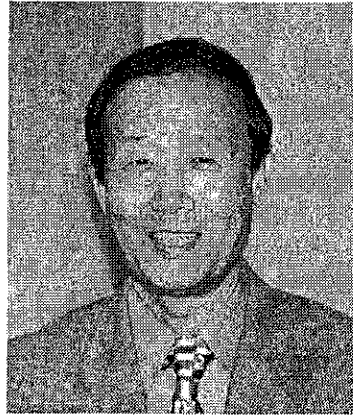


大学戦略に親を意識せよ



女子栄養大学
染谷 忠彦 常任理事
学園政策、運営担当

新連載 第1回 「保護者」

大学のメインの市場は高校だ。そこには、先生、生徒、そして保護者がいる。

今まで大学から高校を見る場合、先生と生徒のことしか考えなくてよかったが、特に親という市場が一つ増えた今、その対策が必要となる。これからの大学運営や募集戦略は、それら三者の市場をしっかりと見据えなければ改革できない。
今、少子化の中で親の

子どもに対する考え方は、だいぶ変わってきている。昔の親よりも子どもへの関心が高く、親の子育てが手取り足取り、過保護になっている。子どもの方も親に頼り、非常に家庭の中で親の影響が強い。

その結果、高校生の進路相談相手は親が上位を占めることになった。子どものことは子どもに考えさせ、やらせるべきなのに、過保護になることで、自主的に考え、行動ができなくなっていることも事実で、親の干渉の仕方が問題になっている。

しかし、親が最後のアドバイザーであれば、親に現実を理解してもらい、自分が経験した時代とは大きく変わっていることを知ってもらう努力

を大学はしなければならぬ。親を取り込んだ大学運営をする時代だ。

言葉では簡単だが、いざいかに取り込めばいいのか決断することに困難を要する大学もある。何でそんなことをしなければならないのかと、抵抗勢力が多勢を占めることもあろう。

しかし、入学式、卒業式には両親のみならず祖父母、兄など一家で出席する家族もあり、同伴者一名と規制する大学も出始めている時代だ。

オープンキャンパスなどの機会に、入学前教育、履修指導、学園祭、就職フォーラム、在学中の成績を含めた学園生活などを、いかにしっかりと保護者に伝えられるかが、その大学の評価にもつながっている。